



毎月1回リンクナースが集まり勉強会などを行っています

## 包括的排尿ケアに取り組んでいます

皮膚・排泄ケア認定看護師 山田優子

平成28年度に「排尿自立指導料」が新規保険収載されました。当院でも排尿ケアチームを立ち上げ、院内研修の開催やマニュアル作成、プレテスト期間を経て、平成29年1月より算定を開始しています。現在は、全病棟で実施されるようになり、患者さんからも「自分でトイレに行けるようになって良かった」など、嬉しい声が聞かれるようになりました。

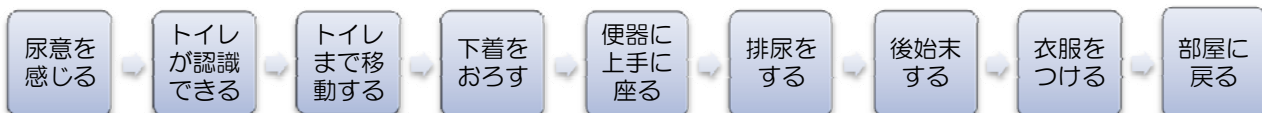


### 「排尿自立指導料」とは

尿道カテーテル留置中で抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれる者、あるいは尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を有する患者に対して、病棟でのケアや多職種チームの介入による下部尿路機能回復のための包括的排尿ケアについて評価することに対して、200点(週1回、計6回を限度とする)が算定されます。

不要となった尿道カテーテルを早期に抜去し、排尿が自立することにより身体活動量が増え、将来的には寝たきり予防となることが期待されます。

## 排尿に関する一連のプロセスを観察します



どこか1か所でも問題があると排尿がうまくいかない原因となります。認知機能や運動機能によるものか、膀胱や尿道の障害によるものか、そして、どの部分ができないのかをよく観察することが、具体的なケアを考える上で重要になります。

# 専門性をいかし その人に合った排尿ケアを支援します



排尿ケアチームは多職種で構成されています

## 泌尿器科医師

- ・膀胱や尿道のくわしい検査
- ・治療や薬剤の検討 など

## 皮膚排泄ケア認定看護師

- ・失禁による皮膚トラブル予防とケア
- ・排せつ用品の選択やおむつの正しい使い方、家族への情報提供など

## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

- ・脳障害による排尿トラブルのアセスメントと評価
- ・麻痺がある人への介助のポイント など

## 理学療法士

- ・失禁に対する骨盤底筋運動の指導
- ・排尿動作に関わる起き上がり、立つ、歩く訓練 など

## 作業療法士

- ・障害に応じたトイレ環境の整備
- ・自立に向けた衣類の選択 など



## 尿道留置カテーテル抜去後は 排尿日誌と残尿測定を行います



ブラダースキャン(左)の病棟設置により、病棟看護師でも簡単に、かつ患者さんへの侵襲が少なく実施できるようになりました。腹水などで正確な値が得られない場合は、排尿ケアチームが超音波画像診断装置(右)で測定します。



毎週木曜日にチームで病棟ラウンドを行います。既往歴やADL、患者さんの思いも確認しながら、担当看護師と一緒にケア方法を考えます。

急性期病院の短い入院期間では、尿閉は改善したけど、排尿動作の改善までには至らなかった…というケースも多くあります。退院後も継続できるよう地域へつなげていくことが大切です。